



特定非営利活動法人

東京学芸大子ども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future



# TECH未来通信

2023.MAY  
VOL.055



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1  
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階  
042-316-6645 ✉info@techmirai.jp

## TECH未来を使ってきた先生方(その35)

### 大阪府でのTECH未来

今回は、大阪市立東我孫子中学校の米澤和善(よねざわかずよし)先生にお話を伺いました。

米澤先生は、今年度AWS協賛STEAM教材贈呈にご快諾いただき、TECH未来を贈呈させていただきました!早速ご活用いただいているということで、米澤先生にインタビューしました。

—教員歴何年目ですか？

21年目になります。

—TECH未来を使用して何年目ですか？

TECH未来を知ってから約3年になります。産技学会のアイディアソンに参加した際に実践の紹介を見て、これはすごい!おもしろそう!と思ったのがTECH未来との出会いです。自分の授業で使用してからは2年になります。最初の年は、校費でTECH未来BASICを20セット購入し、4人グループで2セットを使用し実習を行いました。問題解決的な学習を行う際には、次のクラスのために分解する必要があり、作ったものをGIGA端末で撮影し、次の授業では動画や写真を確認しながら再び組み立てるという方法で実習を行いました。今回AWS協賛STEAM教材贈呈をいただき、分解の必要がなくなりありがたく思っております。

—具体的にTECH未来を使って、現在どのような授業を実践されていますか？



以前は、他社のリンクとギヤ学習セットの教材を使って、基本的な機構の学習を行い、その後、生活に活かせる機構を開発しようという内容で実践を行っていました。現在は、その内容をTECH未来にスライドしパワーアップしています。以前の教材ではできなかったモータを使って機構を動かすというところに様々な学びがあり、TECH未来の魅力の1つだと感じています。

—今後TECH未来でどんなことをしてみたいですか？

現在本校では、TECH未来の教材を内容C:エネルギー変換の技術において活用しています。そして昨年度より、内容D:情報の技術(計測・制御)の授業において、micro:bitの活用を始めました。今回、AWS協賛STEAM教材贈呈ということで、プログラミングパーツセットの贈呈もいただきましたので、計測・制御についてもTECH未来シリーズを活用させていただこうと思っています。最終的には、micro:bitを活用して、TECH未来のDCモータ(発電モータ)を制御し、統合的な問題の解決につなげていこうと考えています。

—最後に一言!

TECH未来は、機構の仕組みを実体験として学び、その学びを活用して自分たちのアイデアを形にすることができる教材です。内容C:エネルギー変換の技術の「設計」の部分において、その内容について苦労されている先生方が多いと思います。TECH未来はその問題を解決できる教材であると感じています。大阪市では、研究会などにおいてTECH未来を紹介し、研修会も行う予定です。今後も、自分自身の授業においてTECH未来を活用した実践のブラッシュアップを行いつつ、多くの先生方にTECH未来を広めていきたいと考えています。

### 編集後記

具体的な活用方法についてもご教示くださりありがとうございます!授業実践に関して、続報をお待ちしております!